

Collège de France  
*Philologie de la civilisation japonaise*  
2018-2019

*Le Roman du Genji:*  
Poésie, langue et bouddhisme

3. Le 22 janvier 2019

- *Le Genji, surface et profondeur (2)*-

- かやうにそこはかなきことを思ひつづくくるをやくにて、物詣でをわづかにしても、はかばかしく人のやうならむとも念ぜられず。このごろの世の人は十七八よりこそ経読み、行ひもすれ、さること思ひかけられず。

- からうじて思ひよることは、「いみじくやむごとなく、かたちありさま、物語にある光る源氏などのやうにおはせむ人を、年に一度にても通はしたてまつりて、浮舟の女君のやうに山里に隠し据ゑられて、花、紅葉、月、雪を眺めて、いと心細げにて、めでたからむ御文などを、時々待ち見などこそせめ」とばかり思ひつづけ、あらましごとにもおほえけり。

- その後はなにとなくまぎらはしきに、物語のこともうちたえ忘られて、物まめやかなるさまに、心もなりはててぞ、「ななどて、多くの年月を、いたづらにて臥し起きしに、おこなひをも物詣でをもせざりけむ。このあらましごとととも、思ひしことどもは、この世にあんべかりけることどもなりや。光源氏ばかりの人は、この世におはしけりやは。薰大将の宇治に隠しすゑたまふべきもなき世なり。あなもののぐるほし。いかに、よしなかりける心なり」と思ひしみはてて、まめまめしく過ぐすとならば、さてもありはてず。

- さすがに命は憂きにも絶えず長らふめれど、後の世も思ふにかなはずぞあらむかしとぞ、うしろめたきに、頼むこと一つぞありける。天喜三年十月十三日の夜の夢に、みたる所の家のつまの庭に、阿弥陀仏立ちたまへり。さだかには見えたまはず、霧ひとへ隔たれるやうに、すきて見えたまふを、せめて絶え間に見たてまつれば、蓮花の座の、土を上りたる高さ三四尺、仏の御丈六尺ばかりにて、金色に光り輝きたまひて、御手片つ方をば広げたるやうに、いま片つ方には印を作りたまひたるを、

- こと人の目には見つけたてまつらず、われ一人見たてまつるに、さすがにいみじくけ恐ろしければ、簾のもと近くよりてもえ見たてまつらねば、仏、「さは、このたびは歸りて、後に迎へに来む」とのたまふ声、わが耳一つに聞こえて、人はえ聞きつけずと見るに、うちおどろきたれば、十四日なり。この夢ばかりぞ、後の頼みとしける。

- ふみこにはらなたりい人か人の  
言ゆきりも乗かはよもきる前づ  
とたしなうにべもれ心深か深  
人、にはずべ雲る年こ、心か罪じよ  
じ。陀のま怠もはりたまを、だ、れば、  
ら阿弥世と懈てむない読のた、そはべ  
べただむ心に、背うべる。経もはひべ  
はたらりむにやかはかうらふかう  
し、べからちきひま暗べど、まも多  
みも、はばならみべらて目はれたし  
忌とひゆにたふすもたりべひずの  
言ふらつ聖ひたたりはさは思らと  
は言なて、ただゆたなりは、まにぞ  
今、をべば、たに、なて、さうを  
に、か経すれ、たの、ほれ、たの、  
いかも、とは、べ、ず、ど、そ、ほ、た、の、  
いとなく、とは、べ、ぬ、る、よ、老、と、ま、た、は、  
世、知、つ、け、

- 聖などすら、前の世のこと夢に見るは、  
いとかたかなるを、いとかう、あとはか  
ないやうに、はかばかしからぬ心地に、  
夢に見るやう...
- 然るを汝が姿はひじりに似て、心はにご  
りにしめり。



- *abhijñâ, jinzû* 神通：
- 神足通・天眼通・天耳通・宿命通・他心通・漏盡通 (六通・五通)

- しげり行く 蓬が露に そほちつつ 人に訪  
はれぬ 音をのみぞ泣く
- *shigeri-yuku / yomogi ga tsuyu ni / sobochi-  
tsutsu / hito ni towarenu / ne wo nozomi-naku*

- 尼なる人なり：
- 世の常の 宿の蓬を 思ひやれ 背き果てたる 庭の草むら
- *yo no tsune no / yado no yomogi wo / omoi-yare / somuki-hatetaru / niwa no kusa-mura*

- そむくとて 雲にはのらぬ ものなれど  
世のうきことぞ よそになるてふ
- *somuku tote / kumo ni ha noranu / mono  
naredo / yo no uki koto zo / yoso ni naru chô*  
(102)

- 淮南之求神仙也。一旦乘雲而何益。
- *Wainan no shinsen wo motomeshi ya / ittan kumo ni norite mo nan no eki aran*
- *Wakan-rôei-shû* 和漢朗詠集
- Minamoto no Shitagau 源順 (911-983)

- 辯才無礙。慈念眾生、猶如赤子，功德具足，心念口演，微妙廣大，慈悲仁讓，志意和雅，能至菩提。
- 普為十方一切眾生演說妙法。[...] 無量眾生，聞法解悟，得不退轉；無量眾生，得受道記

- 土御門殿にて三十講の五巻、五月五日に  
当たれりしに：
- 妙なりや 今日けふは五月の 五日とて 五つ  
の巻の あへる御法も
- *tae-nari ya / kyô ha satsuki no / itsuka tote /  
itsutsu no maki no / aeru minori mo*

- Edward Kamens,
- *The Buddhist Poetry of the Great Kamo Priestess : Daisaiin Senshi and Hosshin Wakashū,*
- Ann Arbor, 1990.



- 轉女成佛經：
- 消滅先罪業當得大菩薩果轉女身成無上道
- とりわきて とかれしのりに あひぬれは  
みもかへつへく きくそうれしき
- *toriwakite / tokareshi nori ni / ainureba / mi  
mo kaetsu-beku / kiku zo ureshiki*

- 皆遙見彼龍女成仏 普為時会人天 説法心  
大歡喜
- 36さはりにもさはらぬためしありければ  
へたつるくもゝあらしとそおもふ
- *sawari ni mo / sawaranu tameshi / arikereba /  
hedatsuru kumo mo / araji to zo omou*

- 藥王菩薩品：
- 若有女人聞是藥王菩薩本事品能受持者盡  
是女身後不復受
  
- まれらなる のりをきゝつる みちしあれ  
は うき越かきりと おもひぬるかな
- marera-naru / nori wo kikitsuru / michi shi  
areba / uki wo kagiri to / omoinuru kana

- 妙音菩薩品：
- 及衆難處皆能救濟 乃至於王後宮 變為女身而說是經
- 48 かくばかり いとふうきみを きみのみそ のりのために となりかはりける
- *kaku bakari / itou ukimi wo / kimi nomi zo / nori no tame ni to / nari-kawarikeru*

- かきのもとの人まるなむうたのひじりなりける